

光といのち

第145号
2024年1月1日発行

発行所
真宗大谷派勝善寺
〒299-2214
千葉県南房総市二部1344
電話 0470-57-2657
FAX 0470-57-2290
メール info@syozenji.or.jp
URL http://syozenji.or.jp/
住職 釋孝昌(井上孝昌)

お前は、
生まれたついでに生きてい
るだけだ。

謹賀新年

本年も、どうぞ宜しく
お願い申し上げます。

寺族一同

師は、父親である住職から題
字下の言葉を言われたと話され
ました。大手ゼネコンの営業マ
ンとして辣腕を振るっていた頃
のことでしょう。

「頭にきたけど、ああいう言
葉、残るな。」と述べられました。

そのお姿は、なんとも明朗で
すがすがしく輝いていました。

ところで「三帰依文」を唱え
る際、講師と聴聞者が向き合い
互いに合掌礼拝しますね。それ
は、その場が仏さまの世界であ
ることの表現です。

その最初に「人身受け難し、
いまずでに受く。仏法聞き難し、
いまずでに聞へ。」とありますね。
これは、こうして在ることを当
然としている傲慢な私への、「そ
うではないぞ」という仏さまの
お言葉です。

「お前は、生まれたついでに
生きていただけだ」という題字

下の言葉も、人間に「生まれた」
こと自体が有り難い。それを知
ることが人生の一大事。自分ら
しく生きようとあれこれしている
のは、「ついでに生きていているだ
けだ」と、私に迫ってきます。

講題の「終活」は、一般的に
は、財産などの持ち物の整理や
葬式や墓の準備を言いますね。
それも必要なことだが、もっと
大事なことがある。それは、仏
さまの言葉、仏教を聞くこと。
そうご法話を聞き取りました。

自分らしく生きようと思っ
ても、身体にガタが出て来た
し不安は次々湧いてきます。思
いは懐かしく温かいけれど、
人生は空虚しく過ぎっていく。

七十歳、古稀を迎えるこの老
人(私)を、仏さまが見れば、
明朗ですがすがしく輝いている
のだろう。

南無阿弥陀仏

1月2日(火) 10時〜11時30分

しゅ しょう え
修正会

Zoomで参詣される方は、
メールでお申し込みください
してください。

講題「終活」



人身受け難し、いまずでに受く。
仏法聞き難し、いまずでに聞へ。

了善寺住職 百々海真師



報恩講

日中講師法話



お供物準備



会場設営



幕張り



おみかき



- 準備**
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|-------|-----|
| 青木 敏夫 | 明石 圭司 | 明石 義久 | 足達 崇 | 大胡 登美子 | 川名 悦子 | 川名 喜昭 | 黒川 敦子 | 重田 明美 | 重田 和夫 | 鈴木 正一郎 | 田中 昭一 | 田中 晋一 | 富永 清人 | 能重 勉 | 堀海 栄子 | 三堀 清 | 渡邊 秀子 | 坊守 住職 | 副住職 |
|-------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|-------|-----|



- 運営**
- | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|------|--------|------|------|-------|
| 池田 千代枝 | 石井 久 | 狩野 昌也 | 黒川 敦子 | 川名 信之 | 川名 三枝子 | 高梨 和夫 | 田中 昭一 | 田村 晋一 | 富澤 真知子 | 蘆居 政男 | 中山 郁夫 | 能重 隆 | 長谷川 吉枝 | 三堀 清 | 吉田 誠 | 坊守 住職 |
|--------|------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|------|--------|------|------|-------|



お持ち帰り精進弁当

- 役員**
- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|---------------|-------------|---------|--------|-------|--------------|-------|--------------|-----------|-------|-------|------|------|-------|------|
| 司会 朝倉 和利 | 記録(カメラ) 福原 広美 | ズ川△配信 黒川 敦子 | 受付 朝倉 智 | 池田 千代枝 | 狩野 昌也 | 報恩講志記録 川名 利幸 | 田中 昭一 | 精進弁当配布 久保田 守 | 駐車場 田村 徹夫 | 青木 敏雄 | 明石 圭司 | 田中 誠 | 姫松 実 | 廣嶋 敏雄 | 三堀 清 |
|----------|---------------|-------------|---------|--------|-------|--------------|-------|--------------|-----------|-------|-------|------|------|-------|------|



責任役員挨拶



速夜 こそくしょう『御俗姓』拝読 副住職



受付 総代理 報恩講志記録

み光のもと
われ今幸いに
この浄き食をつく



司会

世話人全員で後片付け後に次期当番地区代表 能重 勉 氏の挨拶で「いただきます」。



精進弁当で会食



晨朝 副住職 法話

ズーム配信機器

おかげさまで、報恩講が勤まりました。有難いこととさせていただきます。
ズームでのお参りも合わせると、速夜三十二名、晨朝十八名、日中九十名、延べ百四十名でした。また、百九十一名から九十四万二千円の報恩講志・仏花・供物米が寄せられ、六十万三千百七十七円の剰余金が出ました。緑越金と合わせ、本堂畳替え(タフリング敷き)費用といたします。
コロナ後の再出発ができたこととホッとしています。これを契機に法要や聞法会にみな様が訪れるようになつたら、ほんとうに嬉しいですね。しかし、それが一番難しいことですね。



釋喜法(川名喜昭氏) 感話

世話人の方々、千葉組の方々等、非常に多くのご縁をいただき、そのご縁の一つ一つが私の宝物です。

中でも、千葉組門徒会の方々のお勤めがとても素晴らしく、私も正信偈を習いたいと住職にお願いしたご縁が人生を変えました。

毎週月曜日の朝六時より正信偈・御文・法話をいただき、良いい話しを女房と二人だけではもったいなく、もっと多くの人に聞いてもらいたくて、心あたりの方々をお誘いしましたら、コロナウイルス感染症以前は、二十名ほど集まってくださいました。今は十一名です。始めてから、十四年間続いております。

住職は、親鸞聖人の教えをわかりやすく膝を交えて雑談のよ

うにお話をしてくださいませ。「人間の生き方や心身を悩ます一切の欲望迷いの元を煩惱と言いますが、煩惱は捨てても捨てられない。その中でしか生きられない私たちを阿弥陀様は救ってくださいている。など色々と話してくださいませ。

真宗の教えは、とても難しく何度聴いても、なかなか理解できません。時には忘れてしまうこともあります。それでもまた聴いてみようという思いがわいてきます。ですから、十四年間と長く続いているのだと思います。皆さんの中でも聴いてみようという方がおいでになりました。たら是非仲間になってください。真宗のお寺は、宗祖親鸞聖人の教えを聞く聞法道場です。一人でも多くの参加をお願いします。

私は「阿弥陀様」のご縁の中で生かされているのではないかと、つくづく思うことがあります。毎週月曜日「阿弥陀様」の御光^{みひかり}に照らされた本堂に入りますと心が落ち着き、仲間との勤行が一週間のスタートラインだなと心が引き締まるのを感じます。

何年か前の法話で、「死ぬ迄、

生きがいを持って仕事をする」「最後におしまれる人にな리なさい」「自分は永遠に通じる命を生きているという自覚を持ちなさい」と教えをいただきました。

まさに朝の勤行が、生き甲斐を持って仕事を始める始まりです。真宗宗歌二番に「六字のみ名をとなえつつ 世のなりわいにいそしまん」という歌詞があります。これは「阿弥陀様」に掌を合わせて南無阿弥陀仏とお念仏を称え仕事に励みましようということだと思えます。これは、真宗門徒の生き方を教えてくれるありがたい、そして私の一番好きな御言葉です。

今、世界に目を向けますと、二つの地域で悲惨な戦争が起きています。毎日沢山の命が奪われています。命は一回限りの誰にも代わることのできない尊いもの。このような時こそ、仏法の場に身を置いて親鸞聖人の教えを聞いて、命の大切さ、生きていることの意義を考えるとときではないでしょうか。私は、縁が尽きるまで仏法を聴聞し、皆様と共に歩んでいきたいと思えます。

南無阿弥陀仏

1つ子定ください

修正会

1月2日(火) 10時〜11時30分
八日講十日講

1月8日(月) 9時〜11時

親鸞教室

1月24日(水) 13時半〜16時

仏教を聞き語り(合同)会

2月11日(日) 13時半〜16時

春彼岸会

3月20日(水) 10時〜11時30分

仏教を聞き語り(合同)会

兼花まつり

4月7日(日) 13時半〜16時

親鸞教室

4月24日(水) 13時半〜16時

仏教を聞き語り(合同)会

5月12日(日) 13時半〜16時

親鸞教室 [中佐久間講]

5月23日(木) 13時半〜16時

八日講十日講

6月2日(日) 9時〜11時

奉仕作業

6月9日(日) 8時30分〜

勝善寺聞法会

6月未定 13時半〜16時

仏教を聞き語り(合同)会

7月21日(日) 13時半〜16時

※八日講十日講・奉仕作業以外は、ズーム配信します。